

日本エコレザー対談④8

田尻 敏寛氏

(株)でんでん社長、KYOTO Leather主宰

稲次 俊敬氏

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)



田尻氏(左)と稲次氏

京友禅・西陣織の技法を取り入れた革で ラグジュアリー市場に切り込む

タンナー、職人、メーカーが
一つになって「京都レザー」に

稲次 今回は京都にある(株)でんでんの社長であり、KYOTO Leatherの主宰者でもある田尻敏寛様にお話をお聞きます。

大変立派なシヨールームですね。隣接の住居も、いかにも京都というたたずまいですね。二条城のすぐ近くで、立地も抜群です。

田尻さんと初めてお会いしたのは一昨年、二条城で開催された「KYOTO Leather Meeting 2018」展の会場でした。KYOTO Leather(以下、京都レザー)さんは革と革製品の両方を手掛けている会社と捉えていますね？

田尻 京都レザーは、タンナーさん、染屋さん、箔屋さん、かばん屋さんらが集まってものづくりを一緒にやっています。その集まりが『京都レザー』ということです。対外的には一体化した一つの組織として見えるようなブランディングを私がしているのです。

稲次 田尻さんが司令塔というわけですか？

田尻 そういうことになりますね。

稲次 しかし、革の間屋であり、製品の問屋でもありますね。

田尻 そうです。でも、製品は受注生産のほうが多いです。ノウハ

ウを積み重ねて、もう少し先が見えてきたら、製品を作って在庫を持つことも考えています。

付加価値をつけられる
素材を探し、革に行き着く

稲次 革の世界に入ったきっかけは何ですか？

田尻 20代の頃はホームページを作ったり、システム開発、老舗のコンサルティングなどをやったりしていました。大学が京都で、在学中から京都で仕事をしていたので、ある工場で友禅染めの商品企画をして、それを売ったりしていました。

その後、iPhoneとかiPadがはや



稲次氏



田尻氏

り始め、和柄ケースとかも手がけました。今でこそその種のはたくさんありますが、私はその走りの仕事をずっとやっていました。

でもそれは、全て手仕事で職人が作るの、非常にコストが掛かります。そして、それが広まるころには、中国で量産してくるから、その人達には価格も含めて敵わないわけです。

繊維を染めて作るだけというのはどうもおもしろくない。別に私がやろうと誰がやろうと一緒にやら。また、商売がうまく行ったら今度は工場が自分たち自身で商品を作って売りたくなります。そうしたら私には何も残らない。

付加価値をつけられる分野は一体何かと思いい、それを探して突き詰めていったときに革素材に行き着いたのです。革はシルクと違って耐久性があり、世間的に最も高い価値が認められている素材です。そこで革問屋さんから白地の革を買ってきて染めるところからスタートしました。それが『ZOZO Leather Project』の始まりです。

稲次 京都レザーを手短に表現す

ると、どういうことになりますか？

田尻 京都レザーというのは、原材料となる白革の下地を姫路で鞣してもらい、京都に持ち込み、京友禅をはじめとする京都の伝統工芸の技法を生かして作った革なのです。

しかし、革を普通の着物と同じように染めると、「蒸し」という工程で革はくしゃくしゃに縮んでしまいます。また、色出しも、繊維業界の染色法では定着しません。

これらの課題を克服するために、ありとあらゆることに挑戦しました。このため、革をさんざんつぶしてしまいましたね。

稲次 その次のステップは何でしたか？

田尻 2016年に海外の展示会に出展したのが始まりです。

東京の展示会にカバンなどを出すうちに、経済産業省さん、タンナーさんをはじめいろんな専門家と知り合いになって、この方達と連携して現在の形が出来上がってきたのです。

京都レザーを作り出す 4つの伝統技法

稲次 斬新な加工が目を引きまます。技法としてはどのようなものがありますか？

田尻 主に、京友禅の手捺染、墨流し、西陣帯の金箔・銀箔の引箔、草木染めの4つです。

稲次 独自の境地ですね。

田尻 いやあ、お客さんの心変わりには早いので苦労します。やっとおもしろい色・柄が出せるようになったと思ったら、お客さんの関心はもう別のところに行ってしまうていることしばしばですから。

稲次 「京都レザー」って、響きも良くネーミングがいいですね。

田尻 京都レザーって京都の牛の皮なのですか、とよく尋ねられます。現在は、国内原皮を使用しますが、来年から京都の牛の皮を使う企画も考えています。

稲次 京都の牛つてどの辺りが産

京都レザー 4つの伝統技術

京友禅 手捺染



何枚もの型を正確に重ね合わせて、一つの柄を染め上げる。顔料染めやプリントでは出せない高い発色性が特徴。

京友禅 墨流し



水に墨を落として模様を写し取る伝統技法。流し方で多彩な表情が生まれ、同じ模様は二つと作れない染め物。

西陣帯箔 金銀箔



元来、箔は織物の柄を効果的に引き出すための技法。金や銀などの箔を何枚も重ねた模様には奥深い光沢がある。

天然草木染め



紫草の根・紅花・茜の根・団栗の実などを煮て抽出した染料を使う。藍・紫檀・紅・桜・茜など色合いは魅力的。

地でしょうか？

田尻 京都府の北部にある京丹後です。その牛は京都市内の食肉加工センターで処理しています。しかしながら、いま経済がこのような状況なので国内原皮は余っています。

そこで来年から、ある大手の食肉の加工業者と組んでその原皮を全部こちらで引き取るという話になっています。ただ心配なのは、どれだけ品質の安定した皮が出てくるか、実際に蓋を開けてみないとわからないのです。

もしも、品質がイマイチであれば、牧場の飼育方法を改善するところまで手がけたいという希望も持っています。

稲次 ある程度の量が集まるのであれば、タンナーさんもロットとして取り扱い易いでしょうね。ところで京都レザーの革は銀面を擦って加工するのですか？

田尻 銀面がきれいなものは銀面を生かして使うことを考えます。このナチュラル感を生かすために草木染めをします。逆に銀面が良

くないものは銀擦りして金箔、銀箔を乗せて使用するような場合もあります。

100万円を下らないラグジュアリー市場

稲次 手がけておられる革製品はユニークな高額品ばかりですね。

田尻 価格帯はカバンだと1個50万円とか100万円くらいの高額商品です。

稲次 ラグジュアリーな市場に絞っているわけですね。

田尻 はい。国内にはコロナ禍に関係なく嗜好品で遊びのある市場が非常に広がっています。株高もあり、その市場は大きくなっていくように感じます。100万円、200万円クラスで、他人が持っているないカバンを欲しがらる客層があるということですね。

稲次 ちょっと背伸びして欲しいものを買つという層もありますね。

田尻 そうですね。例えば、1年間

頑張ったご褒美でもいいわけですよ。例えばエルメスさんの財布なら30万円くらいします。でも30万円まで出さなくても、オリジナルでいい財布を作ることとは可能なのです。そのようなお客様は革の加工から縫製まで、出ま上がる過程も楽しんでいただいています。

稲次 周囲からいいものを持つてね、と言われたら、すごい満足感があるのでしょうか。どこを探してもそのような商品は見当たらないのですからね。企画力の優れた百貨店でも、そこには挑戦していませんね。

田尻 特選市とか逸品会みたいな企画があれば組めるかもしれませんが、残念ながらそういうお誘いは今のところないですね。皮革製品って、夢を売るようなものです。近頃はEコマースとSGSとといったワードで騒々しいですが、機能性や社会性ばかりに走っていくと夢を壊すことになりかねません。

受注を待たず、「欲しい」と言わせるのが仕事



アタッシュとブーツ



ショールーム

稲次 仕事の作り方とか、進め方とかはどうされていますか。

田尻 欲しいと言われて作るのには割合簡単なのです。でも仕事は先々を見据えて作っていないといけません。

これは2017年に当社で作った大手化粧品さんのノベルティの革小物です。化粧品の上得意様向けのノベルティとしてかなりの数量を納めさせていただきました。そういう仕事の話は他でも見受けられます。他にも、一本で数百万円以上する時計のベルトなんかも供給しています。

よくクライアント名を伏せた状態で企画が持ち込まれたりしています。そういう話は断るようになっていきます。きちんとお客様のことについて理解し、必要なデザイン・製品を作つていかないとお客様更にはその先のお客様に伝わらない。そういう商売の仕方をしていません。

以前、旧態依然の商社さん・企画会社などで、差益だけ取って、必要なければすぐ返品・未払い、みたいなこともあったので、基本的にはクライアントさんとの直接取引・

買取での取引のみに限定して進めています。

稲次 ある程度メーカーは決まっているのですか？

田尻 信頼関係は大事なので、原則普段から交流のあるメーカーさんでものづくりをしています。でも必要に応じて他の会社とも組めます。例えば特殊なアタッシュケースは、手慣れた専門メーカーに出さないといいものはできませんので。

稲次 いわゆる大手さんとは組めない？

田尻 大手さんは数量とか品質基準が先に来るから、思い切ったおもしろいものはなかなかできないですから、組むことは少ないです。

「友禅」「西陣」の言葉に頼らないブランディング

稲次 革の調達では(株)前實さん(まえみ)(姫路のタンナー)との取り組みが深いようですが。

田尻 ほとんど前實さんです。クロコダイルみたいな特殊な革や、ラムやシープのクラスト革(白の地下革)は、お付き合いがあるところをお願いしています。

稲次 京都レザーさんの革は、耐久性とか染色堅ろう度(色落ち)は問題になりませんか？

田尻 色・柄の染色堅ろう性は、日々試験を重ねて、百貨店などの基準などクリアするような努力はしています。摩擦に対する染色堅ろう度は、ウレタンなどを上から吹きつければ問題は解決できますが、自然な仕上げを求めるお客様には素上げの商品を納める場合もあります。

稲次 ファッションショーとかをコラボでおやりになりますか？

田尻 やらないですね(というか話なんかこないです)。ファッションショーって、納期がタイトで、あまり現場の下支えにならないので、実際できないでしょうけど。

※これまでの「日本エコレザー対談」は、
www.japan-ecoleather.jpのトップページの
《業界情報》の項でご覧いただけます。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値を満たしている
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



京都レザーショールームの外観

稲次 家具とかもおもしろそう
ですが。

田尻 家具はこれから取り組み
を広がっていきたくと思っています。
「おもしろい革があるから貼って
みました」ではダメで、トータルコ
ーディネイトでこうしたらいいで
すよっていうところまでいかない
といけないのです。

稲次 いま座っているこの革張り
の椅子は豪華絢爛ですね。黄金の
茶室を作った豊臣秀吉がたいそう
喜びそうな柄ですが。

田尻 それは何百年も前の箔の
屏風の柄をモチーフとして使って
います。

稲次 歴史はモチーフとしていい
のではないですか。

田尻 いいですが、それに頼ると
良くないですね。これは京友禅の
革です、西陣織の革ですというよ
うなことも言っちゃいけない。

「京都レザー」って言うだけで売
れるところまでもっていかないと

いけないと思っています。
稲次 デザインはどなたがされる
のですか？

田尻 それは職人さんにお任せし
ています。私は「こういう系統の色
で」とか概略仕様を伝えるだけだ
す。

海外展のトレンドカラーから選
ぶことも時にはしますが、流行に
はあまり左右されたくもないの
で、京都レザー独自のカラーリン
グを追求しています。

革製品はどれも作るのに相当時
間が掛かります。だから高価格の
割にはあまり儲からないのです。

おもしろいものが出来たから、
余計にこれを何十個作ってどこか
で売ろうかというようなことも一
切していませんので、余計に一般の
お客様の目に触れることも無いで
すね。

稲次 このショールームがいい
PRの場になりますね

田尻 ありがとうございます。こ
れだけ素材や商品を置いている
と、どこで作ってるのか、欲しいと

いう人が必ずいます。
稲次 ところで、日本エコレザー
の認定は取っておられますか？

田尻 ベースの白い革は前實さん
が認定を取っています。ただ、後加
工として上に色・柄を乗せるので、
これは別に試験しないといけない
ですね。これら全部を認定取得し
ていたら費用負担が100万円単
位になり、大変なので取得でき
ません。

しかし、現状ではベースになる
革はエコレザーです、というのでい
いのではないかと思っています。

稲次 アイデアが次々に出てくる
でしょう。

田尻 最近、色々と追求したいも
のが増えてきたので、ボイラーや
全漉き機とか必要な新しい機械を
どんどん買い込んでいます。

稲次 仕事が広がっているわけ
ですね。

田尻 そうですね。お陰様で広が
っていますね。